

長年の功績を称え  
**全国市議会 永年勤続議員表彰**  
 議長 平山泰司  
 (25年表彰) 議員



6月14日に東京都で開催された第99回全国市議会議長会定期総会において、本市議会より平山泰司議員が永年勤続25年の議員表彰を受けられました。

また、6月16日の本会議において、議長からの表彰状の伝達及び市長からの感謝状の贈呈が行われました。

**議員歴**

- 平成10年4月～18年3月（本渡市議会議員）
- 平成18年4月～現在（天草市議会議員）

**議員より一言**

この度、25年の永年勤続表彰を賜りました。これも、ひとえに地元後援会をはじめ、多くのご支援、ご厚情の賜物と深く感謝申し上げます。私がライフワークとして取り組んできた「天草未来大橋」が本年2月に開通し、慢性的な渋滞が劇的に緩和され、大きな喜びを感じています。

これからも、住みやすい天草市をつくるために頑張っていく所存です。

**政務活動報告**


**2月8日・9日  
 市民クラブ他行政視察**

- 視察先：北海道東川町・上川町
- 参加者：下田昇一郎・五嶋善彦・澤井一富・浦本力・若山敬介・吉田修

**視察報告** 東川町はこの25年間で人口が約2割増加。移住・定住の取組のほか、「写真の町」宣言による事業の推進、子育て環境の充実及び職員力向上に力を入れておられました。

上川町では、人口減少など過疎地共通の問題に地域おこし協力隊制度を活用して「KAMIKAWORKプロジェクト」という自然を生かした滞在型リゾートプロジェクトがあり、大いに参考になるものでした。

経済発展と漁業者の所得向上、  
 観光客滞在のための整備について  
 浜崎 義昭（日本共産党）



**【経済発展と漁業者の所得向上について】**

**問** 海藻を餌として育つ天草の魚介類の代表的なウニが危機的状況にあり、今年度は、実入りが少なく漁業者の収入も大幅に減少している。所得向上の一環としてのウニの実入り実験の進捗状況は。

また、未利用魚介類の商品開発についても早急に取り組むべき。他県では、未利用魚の加工技術や商品化技術開発に取り組んでいる。行政として調査研究を行い、関係団体との取組を早急にすすめるべきではないか。

**答** ウニの畜養試験は漁協や大学と連携して取り組み実入りが良い温度などがわかってきた。今後は地域おこし協力隊員も派遣し調査研究を集中的に進める。

未利用魚については、漁業者、漁協等が行う利活用方法の検討、加工技術の開発などを熊本県と協力し支援していく。




▲現在取り組んでいるウニの実入り実験

**【観光客に安心して滞在してもらうための整備について】**

**問** 天草には、雄大な自然と食を満喫するために来訪される方が多い。自然環境を楽しむ観光地において、トイレは極めて重要な役割を担っている。自己処理型水洗トイレは、価格が300万円台からあり、点検料、水道料及び電気料は不要で、自然を守るアピールにもなる。移動可能な本トイレを早急に設置すべきではないか。

**答** 公衆トイレを更新する際は、バイオマストイレも工法選定の一つとして検討したい。

中学校部活動の地域移行、  
 教育現場の現状と課題について  
 下田昇一郎（市民クラブ）



**【中学校部活動の地域移行について】**

**問** 市民目線の課題として施設、活動費、指導者等の問題があるが。

**答** 施設確保については調整会議で対応し、活動費については保護者負担が大きくなるのが考えられるため、地域移行の進め方によって検討していきたい。また、指導者の人材確保も課題であり、教職員の兼職兼業も視野に入れ検討していきたい。

**要望** 大きな課題であるお金と人材の問題は、国の補助や本市の財源だけでは賅えないのではないか。今後は（仮称）部活動地域移行推進会議の中で、資金調達の手法も見据えた議論を深めていただきたい。

**【教育現場の現状と課題について】**


**問** 働き方改革やデジタル化による教育現場の改善状況は。

**答** 市教育委員会としては、学習指導補助教員や教育活動支援員の配置、校務支援ソフトの導入、学校給食費の公会計化、留守番電話の導入、ICT支援員の配置、タイムカード導入などにより、一月当たりの超過勤務時間が80時間を超えた者の年間の延べ人数は、令和元年の561人から令和4年は299人と減少している。

**要望** 教育現場の様々な課題解決には、担当課のみならず他の部署でも解決につながる施策を検討するなど、職員一丸となつて「天草独自のスタイル」を確立していただきたい。

2024年度熊本県公立学校教員採用選考の志願状況	
採用予定数352人に対し、志願者数943人	
平均志願倍率は前年度比0.1ポイント減の2.7倍。	
校種・職種別の志願倍率	
小学校教諭等1.3倍	
中学校教諭等2.2倍	
高等学校教諭等5.9倍	
特別支援学校（学級）教諭等2.1倍	
障がいのある者を対象とした特別選考0.4倍	
養護教諭7.8倍	
栄養教諭14.0倍	熊本県教育委員会発表

ごみ問題対策について  
 鯖江 達朗（天政会）



**【ごみ問題対策について】**

**問** 環境美化推進員の成り手不足が深刻化しているがその対策は。

**答** 環境美化推進員の皆さんの活動は、ごみの資源化に重要な役割を担っている。現状は制度の継続をお願いしているが対策を検討し進めたい。

**問** 資源物回収を無人化にして曜日を変えて収集できないか。

**答** 現状も時間帯では無人化もあるが、一般ごみの混入等分別の手間が増える課題もある。他市の事例などを研究し検討したい。

**問** 大量の不法投棄が散見される。難しいとは思いますが対策はあるのか。

**答** 定期的にパトロール等を行っている。常習現場には、監視カメラも設置し警察とも連携して不法投棄の特定・指導を行っている。



▲牛深小の児童が絵を描いたプラごみ回収箱を設置

**問** ボランティアでの回収に対し、クリーンセンター手数料の免除等対応できないか。

**答** クリーンセンター手数料は当日の申請でも減免を行っている。

**問** 牛乳パケットトイレトペーパーのさらなる普及活動は。

**答** 子どもたちが回収する給食牛乳パックは、廃棄物の資源化を学ぶ良い機会。今後も一定のルールのもと普及活動を行う。

**要望** ごみ対策は奥の深い問題。市と処理現場が目標に対する諸問題を共有し協議して、ごみに対する市民の理解と指導をお願いする。